

ニジェール共和国

～ ドッソ第2中学校における体育授業～

新潟県阿賀町立上川中学校

佐藤 忍

1 . ニジェール共和国における任国事情

面
地

積：126万7000 km²（日本のおよそ3倍）

理：西アフリカで2番目に大きい国

陸に囲まれ、海からは約650Km離れている。

南西から約300kmにわたってニジェール川。

国土の3分の2はサハラ砂漠。その残りがサヘル（サハラ砂漠の南部の乾燥地帯）である。

国の半分以上は、遊牧民さえも住むことができない土地。

人
首
宗

口：1160万人（2002年）

都：ニアメ（Niamey）（55万人：95年）

教：イスラム教徒75%、その他はキリスト教、原始宗教

1. ニジェール共和国における任国事情

人 種：ハウサ族、ザルマ・ソンガイ族、カヌウリ族、
トゥアレグ族、トゥーブー族、プール族など

民 族：ハウサ（52.0%）、ザルマ・ソンガイ（21.2%）、
トアレグ（10.4%）、プール（9.8%）、
カヌリ（4.4%）、トゥーブー（0.5%）、
グルマンチェ（0.3%）、アラブ（0.3%）



言 語：フランス語（公用語）、ザルマ語、ハウサ語など



1 . ニジェール共和国における任国事情

気 候 : 北から、砂漠気候 / サヘル気候 / サバンナ気候

3月から6月が一番暑い時期になる。

特に4月の日中の気温は45 を越えるほどの暑さになる。

そのため、雨は地面につく前に蒸発してしまう。

12月から2月が涼しい時期で砂漠の温度は夜には零度まで下がる。

ハーマタンという風が吹くと埃の霧となり、全てを覆い尽くす。

5月の終わりには雨が降る。南部の方では年間平均550mmほど。

北部の方では一年間で150mm も降らない場所もある。

1. ニジェール共和国における任国事情

1人当たりGNP : US \$ 220 (1997年)

成人識字率 : 15.3% (男性23.0% 女性7.9%)
(1999年 / 世界最低)

人間開発指数 : 2001年 162カ国中 161位
(最下位は シエラレオネ)

人口増加率 : 3.3% (2000年 / 世界最高から10位)

出生率 : 女性一人当たり 7.3% (1999年)



1. ニジェール共和国における任国事情

5歳未満児死亡率 : 1000人当たり265人(2002年)

出生時の平均余命 : 46歳

初等教育純就学 / 出席率 : 30%

通貨 : CFA (セーファーフラン)

為替レート : 1ユーロ656 F.CFA

すなわち100円がだいたい470F.CFA

1ユーロ = 140円で計算



1. ニジェール共和国における任国事情

主要産業 : 農牧業、鉱業

経済状況 : 伝統的な農牧業と70年代半ばより急成長したウラン産業により成り立っている。累積債務、ウラン市況の低迷、天候不良などにより87年以降マイナス成長に転じ現在に至るも、内政上の不安定さが原因となって構造調整計画の円滑な実施が遅れ、国政の混乱からクーデター事件を招来し、また次第にインフォーマル経済が拡大しつつあるなど、厳しい経済環境にある。

わが国の援助実績 :

- (1) 有償資金協力 (2003年までENベース) 34億円
- (2) 無償資金協力 (2003年までENベース) 454億円
- (3) 技術協力実績 (2003年までJICAベース) 121億円

2．活動内容の紹介

学校について

体育授業について

課外活動（バレーボール）について

学校について

生徒数

- 中学1年生 (6^e) . . . 約600人
- 中学4年生 (3^e) . . . 約100人

職員数

- 男性職員 . . . 20名 (教員4人)
- 女性職員 . . . 4名 (教員0人)

指導教科

- フランス語・英語・数学・理科 (生物・化学・物理)・社会 (歴史・地理)・家庭科・体育

校 時 表

1 限 8 : 3 0 ~ 9 : 3 0

2 限 9 : 3 0 ~ 1 0 : 3 0

3 限 1 0 : 4 0 ~ 1 1 : 4 0

4 限 1 1 : 4 0 ~ 1 2 : 4 0

休 憩

5 限 1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0

(1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0)

6 限 1 6 : 3 0 ~ 1 7 : 3 0

(1 7 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0)



日本とニジェールの比較

日 本

ニジェール

教育制度

小・中義務教育（6-3-3制）

義務化されていない（6-4-4）

進級試験

なし

進級毎に行う。
小学校においても実施。

日本とニジェールの比較

教員

教員免許取得
した者

免許必要な
し。 1992
年より採用な
し。

生徒

義務教育

裕福な家
庭・優秀な
生徒のみが
通う。

生徒年齢 (中学校)

12 - 15 歳

12 - 20
歳

日本とニジェールの比較

生徒指導

学校・家庭・
地域の連携

体罰・退学

施設・設備

県・市町村の
管理下

校舎建物のみ
机・椅子、電
気・水道なし

教材

指定教材等全
児童・生徒に
配布

なし



ドッソ第2中学校 校舎建物

赤土とコンクリートを混ぜ合わせて建てたもの。屋根もあり、公立中学校の中では、とても恵まれた校舎である。



教室内の様子

使用できる机・椅子はほとんどない。電気がないため、教室は暗い。窓を開けると教室が明るくなるが、熱風や砂が入ってくるため、開けられない。



教室黒板

黒板を消すときは、バケツに準備された水にスポンジを浸したもので拭く。乾燥しているため、数秒で乾く。

体育の授業について



10月・集団行動



1月・サッカー



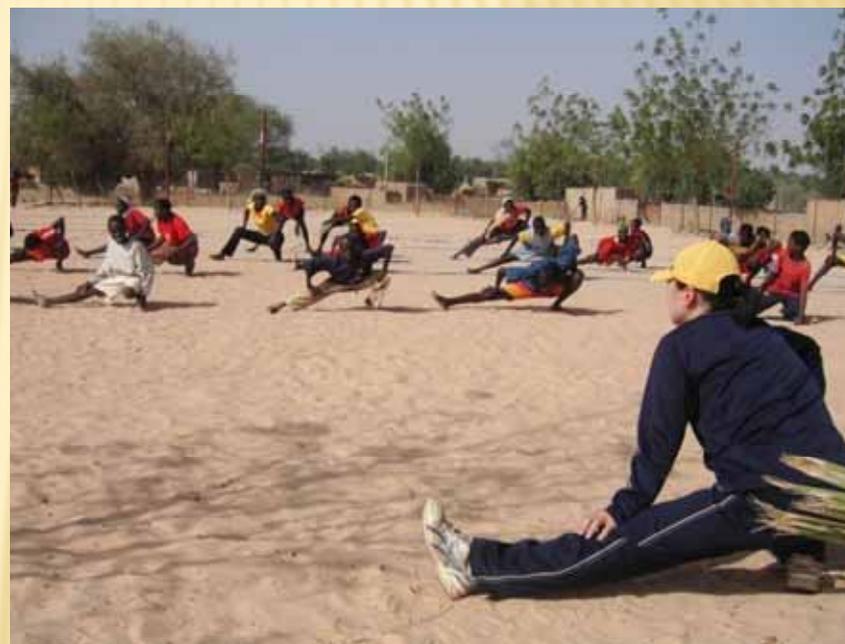
3月・走り高跳び



6月・リュット（ニジェール相撲）



出欠確認と授業の様子



学校活動における悩み

国が教師たちに給料を支払わない



教師たちがストライキを起こす



授業がなりたたない！！

活動における悩み

生徒が途方に暮れる



体育の授業に乱入！



生徒が来なくなる・・・

課外（バレーボール）活動

- 1999年より体育隊員の派遣開始（ドッソ第1・2・3中学校）
- 歴代隊員のバレーボール普及活動
- 2002年バックアップ・プログラムにて日本人選手6名招へいし普及・技術移転を行った。
- 現地選手・指導者の技術レベルの向上



体育隊員のバレーボールの専門性が
必要になってきた。

バレーボール隊員との連携

2005年よりバレーボール隊員の派遣



体育隊員とバレーボール隊員の協力した活動により、バレーボールの普及と専門技術レベルの向上をねらう。

- ・ 2006年8月短期バレーボール隊員6名派遣
バレーボール隊員を中心に、体育隊員4名、カウンセラーパート2名と共に4市へ巡業を行った。

バレーボール隊員との連携

巡業活動の目的

- ・ 指導者の技術向上
- ・ 男子バレーのフォーメーション練習やコンビプレーを視覚的に学んでもらう
- ・ ナショナルチームの強化
- ・ 今後のバレーボール活動への提言

バレーボール隊員との連携

巡業活動

体育隊員がいる都市での巡業活動

ニアメ （国立青年スポーツ学院）

ドッソ （ドッソ第2中学校）

ドゴンドッチ （ドゴンドッチ第1中学校）

タウア （タウア第2中学校）

* 各都市の周辺でバレーボールを行っている現
地人コーチ・選手も招待し、講習会を行った。

巡業普及活動



巡業普及活動



ナショナルチームとの交流試合



ドッソ第2中学校のバレーボール活動

- ・ **初代隊員** : 小グラウンドの柵を作る。
- ・ **2代目隊員** : バレーボール支柱を立てる。
- ・ **3代目隊員** : 日本バレーボールチームよりボール・ユニフォーム等の提供を受ける。
- ・ **4代目隊員** : バレーボールコートラインを作成。

隊員支援経費の活用～ライン作成～



隊員支援経費の活用～ライン作成～



課外（バレーボール）活動の様子



市内中学校への普及活動

バレーボール普及活動

～バレーボール隊員との連携～

- ・ 2代目バレーボール隊員の活動

→ ドッソ市内中学 10校への巡回



JOCV杯の企画

バレーボール大会開催に向けて

早く承諾！

ドッソ州スポーツ局・ドッソ州中高教育監督省・ドッソ市中高監督局に提案

しつこく通ってやっと召集してくれた（怒）！

ドッソ市体育指導主事より体育市内体育教師の召集

指導法、運営方法、ルール、参加方法などの打ち合わせ

3回待ちぼうけ・・・（泣）。
4回目の打ち合わせに、2名の体育教師が集まってくれた（嬉）

バレーボール大会開催に向けて

当然バッチリ!

予算申請、準備等

ドッソ市教育局、市
スポーツ局体育スー
パーバイザー、体育
指導主事、各学校長
への案内

JOCV杯!!

きっと誰も来ない
だろうな・・・

JOCV杯



JOCV杯



JOCV杯



JOCV杯



普及活動におけるの悩み・・・

- **国、地方にスポーツへ回すほどの予算がない**
→ほとんどが他国からの支援・援助で賄っている。
- **施設設備が皆無**
→協力隊員が入っているところには、最低限のものをそろえることができる。
- **指導者不足**
→歴代隊員が育てた選手が指導者として活動。しかし、施設・設備、道具がないこと、全くのボランティア（無収入での活動）となってしまうため、活動できずにいる。

普及活動における悩み・・・

- ・ **スポーツをする環境**

- 灼熱の太陽の下、スポーツをするには過酷。飲料水を確保できる場所に限られる。

- ・ **現地人の生活環境**

- ほとんどが貧困家庭のため、子供たちも働かざるを得ない。毎日の継続した練習の確保ができない。

- 退学する生徒が後をたたない・・・。学校単位で大会を開くと、出場させることができない。

- 地方に行けば行くほど、女子の学校へ行かせることやスポーツをすることの理解がなされない。

普及活動におけるの悩み・・・

・ 現地人の協力

- 現地人は、物資による援助・支援を求めている。
他国とのボランティア団体と比較される。
- JICAのような“技術移転”というボランティア協力を理解されない。また、隊員が女性であること、ただの一隊員でしかないことで軽視されている。

ニジェールのスポーツ普及への兆し・・・

物資による支援ではなくJICAの方針である技術移転の活動を理解する現地人がある。

活動を理解してくれるカウンターパートとの信頼関係作りができる隊員がいる。

ニジェールの
スポーツ普及

様々な機関と現地人を巻き込む。現地人が他国に依存するのではなく、自主・自治力を高められるように。

3 . ボランティア経験を現場に生かす . . .

総合的な学習

- 国際理解
- 社会科との連携
- 発展途上国の理解

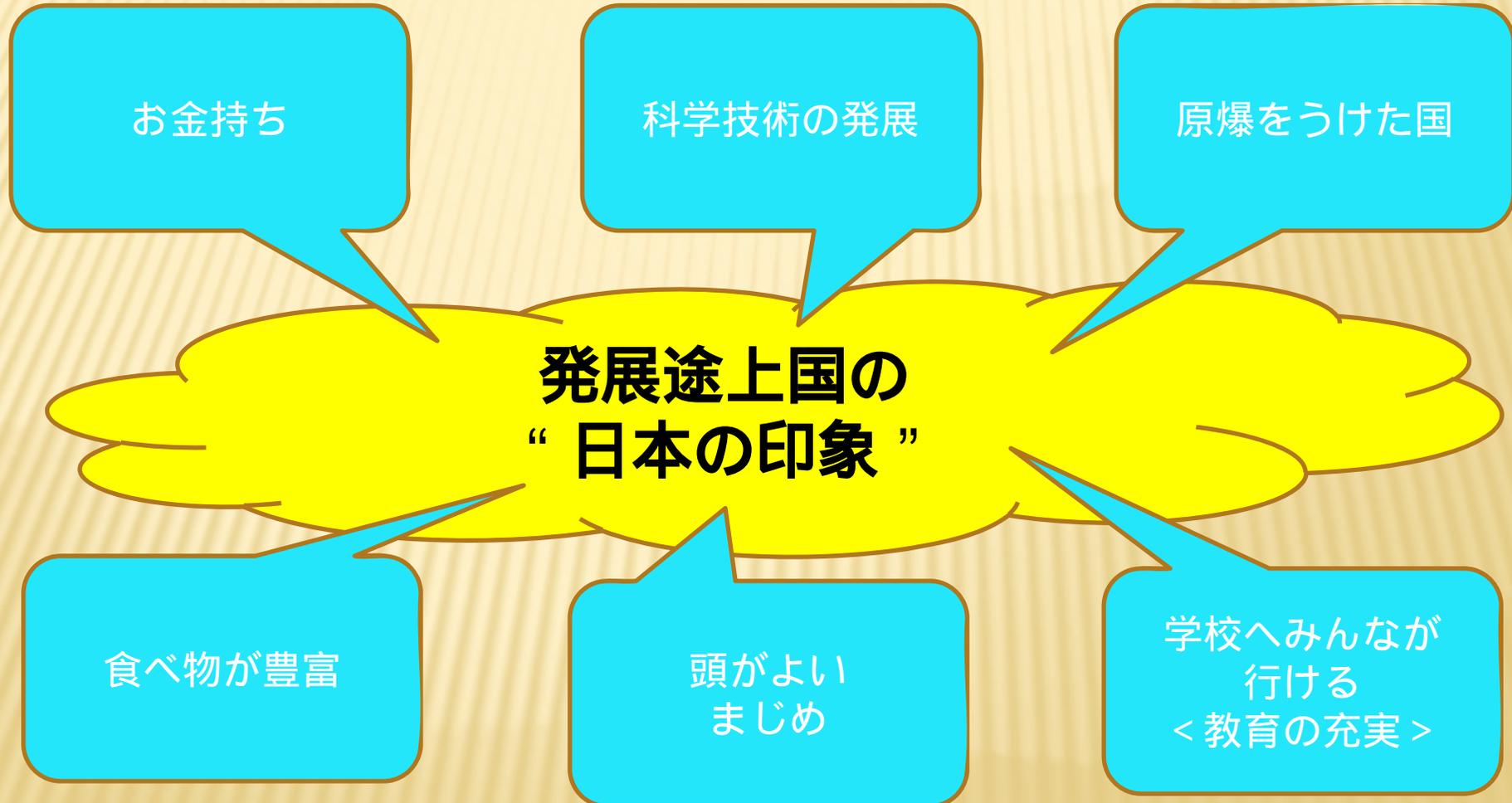
道徳

- 奉仕、ボランティアの心の育成

学級活動

- 進路指導
- 将来の日本を担う子どもたちへの世界を広げる

3 . ボランティア経験を現場に生かす . . .



3 . ボランティア経験を現場に生かす . . .

きっと日本は、僕たちを
救ってくれる

期 待



現職参加した私にできること・・・

世界最貧国の子どもたちの現実を伝える。

日本の子どもたちの心の中に、何かを感じてもらおうこと。

子どもたちが作っていくこれからの未来が、世界を変えていく。日本にはその力があり、そこに住む私たちにも力がある。

FIN